

公益財団法人 庭野平和財団主催
第6回GNHシンポジウム

《開催趣旨》

庭野平和財団設立30周年（2008年）の企画として始まりましたGNHシンポジウムも本年で6回目を迎えていただくことが出来ました。

このシンポジウムは、「GNHと地元学」というテーマを、GNH（国民総幸福量）の哲学を学びながら、水俣地元学を事例としてご紹介するとともに、水俣での現地学習会と並行して実施してまいりました。

昨今、日本のみならず世界中で「地元学」的な地域活性化のための活動が盛んになってまいりましたが、基礎となった哲学は世界的にはいくつかの流れがあります。日本の場合には、立教大学大学院教授の内山節先生の哲学が広く受容され、多くの賛同者がおられます。例えば、2010年の第3回シンポジウムで講師をお勤めいただいた水俣地元学創始者の吉本哲郎氏もそのお一人です。

そこで「地元学」をより広い視野から捉えなおす意味でも、昨年に続いて、内山先生から日本の“むら（=地元）”が持つ未来への可能性と、現在の課題とその取り組みについてご講演を頂き、その後、パネリストの方々より現在行なわれている“生きる場”づくりのさまざまな取り組みをご紹介頂き、参加者ご自身の今後の取り組みの一助としていただきたいと思います。

今まで学んできた「GNH」や地元学の視点を、具体的な“生きる場”づくりの中に見出すとともに、「環境とエネルギー」という視点を新たに加え、今までの学習をより豊かなものにしたいと考えております。

-プログラム

(敬称略)

13:30 開会挨拶、趣旨説明 - 野口専務理事

13:40 講演 - 内山 節 (立教大学大学院教授)

14:40 休憩

14:50 パネルディスカッション

コーディネーター 草郷孝好 (関西大学教授)

パネリスト 内山 節 (立教大学大学院教授)

横ひさ恵 (明るい社会づくり運動理事長)

廣瀬稔也 (東アジア環境情報発伝所代表理事)

16:20 休憩

16:30 質疑応答

17:00 閉会

《講師、コーディネーター、パネリスト紹介》

内山 節 (うちやま たかし) /立教大学大学院教授

1950年東京生まれ、哲学者、立教大学大学院教授、NPO法人森づくりフォーラム代表理事。高校卒業後、大学などの高等教育機関を経ることなく、書籍などで自らの思想を発表しながら活動し、哲学する人で知られる。1970年代から現在に至り、東京と群馬県上野村との往復生活を続けている。著書に『「里」という思想』(新潮社 2005年)、『日本の「むら」から未来を想像する』(農山漁村文化協会 2006年)、『「創造的である」ということ(上、下)』(同、2006年)、『戦争という仕事』(信濃毎日新聞社 2006年)、『清淨なる精神』(同、2009年)など多数。

草郷孝好（くさごう たかよし）/関西大学教授

1962年愛知県に生まれる。東京大学経済学部卒業後、民間会社勤務などを経て、スタンフォード大学で開発経済学の修士号を取得、のちにウィスconsin大学マディソン校にて開発学の博士号を取得した。世界銀行、国連開発計画（UNDP）に勤務し、途上国の貧困削減政策形成にかかわる経験を持つ。明治学院大学、北海道大学、大阪大学を経て、現在は関西大学社会学部教授。人間開発の視点に立ち、内発的な地域社会の創造をテーマにして、現在、水俣市、長岡市、兵庫県、ネパール、ブータンなどでフィールド調査研究や実践支援を精力的に行っている。

槇ひさ恵（まき ひさえ）/明るい社会づくり運動理事長

東京都に生まれる。ボランティア活動の推進や障害者問題の啓発に長年携わる。傍ら市民活動のネットワーキング、NPO支援システム等に関する調査・研究および実践に携わる。2003年、モンゴルやタイ等のハンディを抱える人びととの交流・支援を行う（特活）ニンジン創設に参画し、常務理事・事務局長。2007年より（特活）明るい社会づくり運動副理事長、2010年より理事長。（特活）日本エルノブイリ連帯基金理事、公益財団法人パブリックリソース財団評議員、都留文科大学、立教大学院で非常勤講師。

廣瀬稔也（ひろせ・としや）/東アジア環境情報発伝所代表理事

1972年生まれ。2000年に東アジア環境情報発伝所を設立。2011年にNPO法人の認証を得て、現在代表理事。中韓の環境NGOと日中韓環境情報3言語サイトENVIROASIAを運営。現在は、中国大陸における水汚染問題や東アジアの低炭素化などに取組む。2012年より浜松市の中山間地に移住し、地域活性化をめざしたNPO法人ひづるしい鎮玉の結成に参画し、事務局も担当する。共編著書に『環境共同体としての日中韓』（集英社新書、2006年）、『市民セクター経済圏の形成』（日本評論社、2003年）、『地球と生きる133の方法』（家の光協会、2002年）など。

第6回庭野平和財団 GNH シンポジウム

“東アジア” から “地域” へ

NPO 法人 東アジア環境情報発伝所

廣瀬 捻也

はじめに——東アジア環境情報発伝所とは

- ・“東アジアの平和” への関心

1. 環境共同体としての東アジア

- ・PM2.5／黄砂／越境漂着ごみ／E-waste 問題／“癌の村” ／気候変動
- ・関連する隣国の環境問題

2. 地域からの取組み

- ・旅行の経験から
- ・発伝所などの活動から
- ・東アジアの平和のために

3. 東アジアをつくる地域づくりの実践へ——ひづるしい鎮玉

- ・地域づくりへの挑戦
- 川
- 農
- 里

以上